

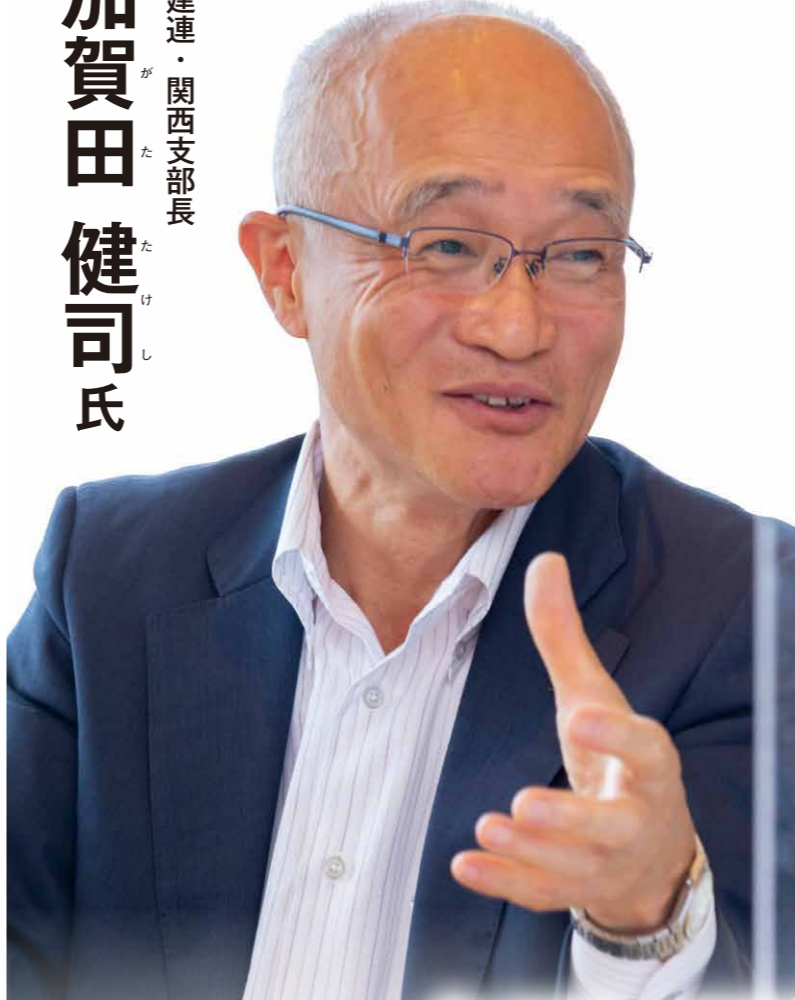
京都精華大学学長

# ウスビ・サコ氏



日建連・関西支部長

# 加賀田 健司氏



## 大阪・関西万博を 世代を超えて対話できる場に！

2025年に開催予定の「大阪・関西万博」

シニアアドバイザーで、京都精華大学の学長を務め、自らを「マリアンジャパニーズ」と称する国際人ウスビ・サコ氏に、建設業界を代表して、日建連・関西支部長の加賀田健司氏が万博への展望と関西が担う役割について意見を伺った。

マリ人と関西人の共通点は、「迷惑はお互い様」と言える気質

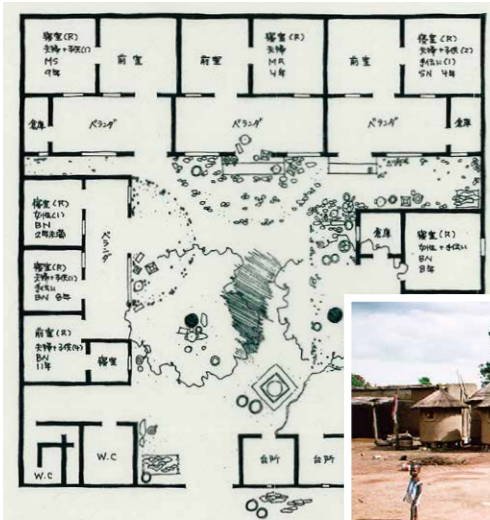
**加賀田** 西アフリカ・マリ共和国のご出身と伺いましたが、来日されて以来ずっとお住まいは関西なんですね。親近感が湧きますが、マリと相通じるところなどありますか。

**サコ** はい。'91年の来日以来、関西が好きですと住んでいます。関西と私が育ったマリはともよく似ているんです。私の表現で言えば「迷惑をかけ合う」かけ合っても大丈夫な人間臭い関係があるのが共通しています。また、コミュニケーションを大切にするとともに同じですね。マリは、とくにあいさつにはうるさいんです。どんな人とも会ったら3分くらい立ち話をして、詳しく近況を聞き合うのが常でした。一種の安否確認になるし、また情報交換にもなるし、結構有効なコミュニケーションだったのかなと思います。そんなマリに似た関西は落ち着くんです。今私は京都に住み、働いていますが、コロナ禍であっても隣人をはじめ多くの人々と触れ合い、大学の先生たちもアポなしで訪ねて来るなど、常に人の輪の中で

過ごしています。関西に居ながらより深くマリ人になった気がして人になられた時は「私はマリアンジャパニーズ」と答えています。

**加賀田** 我々関西人にとって、4年後に開催される万博は、二度目でもあり、とても感慨深いものがあります。万博のシニアアドバイザーとしてのお立場から、関西で開催されることの意義などどうお考えですか。

**サコ** 一般的に万博って未来課題を技術で解決しようという姿勢ばかりアピールしていて、50年後の社会が楽しくなるようなわくわく感を感じ



マリでは、図のように中庭がありその周りに家族の寝室などがある。コミュニケーションを大切に配置されている。

人同士の距離が近く、共同体が色濃く存在するマリ



ないんですよ。ロボットとの共存とか、人間らしさがなくなる方向ばかりなんです。でも、関西は違うと思うんですよ。面白いことが大好きで、新しいことにどんどん挑戦していく関西らしさを発揮すれば、「世界はもつと楽しいよ」というメッセージを発信していけると思っています。でも、気がかりなこともあります。今の関西はちよつと守りに入っている感じもするんです。私が来日した頃は、関西はとてもアグレッシブで、もの見方とかアジア各国のお手本になるほど元気でしたが、ここのところ人口減少や経済の低迷、コロナショックもあり、内向き志向になり、やや自信をなくしているように見えます。

**加賀田** 関西人らしさ、今回それをどう引き出して発信していけるかに、万博の盛り上がりがかかっているように思います。盛り上がりれば、日本全体が共鳴し、みんなが元気になっていくんじゃないでしょうか。

### 日本やアジアが、新たな歴史軸となる第一歩へ

**サコ** 皆さんは知らないでしょうけど、世界はずっと「日本ブーム」なん

ですよ。みんな日本に憧れて、期待もしています。京都をはじめ関西には何百年も大切にしてきたモノ、伝統、文化が息づいています。それは自国のアイデアだけでなく、大昔から異国の良いものも柔軟に受け入れ、アレンジし、独自の新しい文化として生み出してきたんです。そして、日本は戦争や震災など多くの困難を経験しても何度も立ち上がり、そのフレキシブルな精神性とともに伝統や文化といったレガシーを、今も現代に生きる存在として受け継いでいるんです。そんな豊かさを持つ国はそうそうありません。

**加賀田** 日本には「和して同ぜず」という協調の仕方があります。古くから大陸文化を取り入れ、自分たちに合うよう変化させてきた日本人ですが、良いものを取り入れながら一方で自分たちのアイデンティティは守るといった姿勢は誇れることだと思います。

**サコ** 今自信をなくしている多くの関西人に、暮らして脈々と流れている自分たちの風土・文化のすばらしさを今一度自覚し、誇りを取り戻してほしいですね。そして、文化の違いを多くの人にコミュニケーションを駆使

し自信をもって伝えていくこと。それが今回の万博における関西人の役割じゃないでしょうか。個人的には、これまで欧米中心だった価値付けが、そろそろシフトしていくのではと思っています。日本とかアジアとか、これまでとは違う歴史軸になっていくはずですよ。

**加賀田** 日本の伝統文化でしたら関西にまたある歴史的な建造物のすばらしさを伝えたいですね。庭園と室内空間に境界を設けず、縁側などの「間(あいだ)」の空間を大切にすることで一つの目指すべき様式になりつつあります。

**サコ** 私の研究テーマは『空間人類学』といって、人間の行動から建築空間を理解していこうというものなんです。京都の町屋などは人間同士の関わり方が見え隠れしていて興味深いんですよ。世界には新しい技術革新を見せるだけでなく、我々が見落としがちな大事なものを再認識し、伝えていく必要があると思います。よく「クールジャパン」と銘打って、日本人が外国人受けしそうなものを紹介していますが、本当に日本が好き外国人は、例えば「熊野古道に行き

# 「日本はSDGs先進国、リーダーシップを発揮すべき」

「たい」とか「座禅を組みたい」とかもつとデイブな日本に触れたいと思っいるんですよ。宗教や思想は説明が難しいからと日本人は敬遠するんですが、そうじゃなくて、自然との深い関わりの中にこそ、日本人そのものをより深く理解できるエッセンスがある。本場の日本が見えてくるんです。深い日本の精神性を感じてもらえる万博にもしたいですね。

## 日本のポテンシャルを世界に示すビッグチャンス！

**サコ** 今回の万博は、日本のポテンシャルを世界に提示する、ある意味大きなチャンスでもあります。技術優先の考え方で人々をコントロールするのではなく、人々自身の力で未来を創造していける希望をアピールする演出が必要です。

提言として、日本が強く示せることの1つは、何と言ってもSDGsでしょう。企業の取り組みとしても積極的な日本はSDGs先進国です。欧米や途上国では存在すら知らない人も多く驚くばかりです。理念に沿ってお金もかけ、真面目に推進しているのは日本だけ。だからこそ、

2030年までに開発目標を達成するには時間が足らな過ぎること、現実レベルでポストSDGsをどうしていくかについて、リーダーシップを発揮して問うていくべきだと思います。これまでの低姿勢で遠慮深い日本から、「みんなついて来い」という姿勢への転換に期待したいと思います。

さらに1つ、日本にもう少し上手くやってほしいのがODAの活動ですね。せっかく資金援助をしているのにアフリカの現地では、建てる小学校が豪華すぎて「1校のお金で10校造れるんじゃない？」ってことが起こったりしています。これから世界とどうつながっていくかを考える際、各国とのお互いの壁は極力低くなっていきま

すから、日本人は自分たちのことをよく知るとともに、相手と自分たちとの違い、多様性にもしっかり目を向けて対応することややっていってほしいのです。こういうことを積極的にできるのは、世界で日本だけなんです。**加賀田** そうですね。例えば、生活道路を現地の人がつくった「土のう」で整備する活動をしているNPO法人「道普請人」<sup>みちふしんびと</sup>は、30年来継続して活動しており、アフリカをはじめ広く途上国で受け入れられています。建

設業においても、最近ではゼネコンなど現地法人化しているところが増えています。現地のゼネコンを法人化して一緒にやるというスタイルです。難しい海外調整もきめ細かくやらねばという時期に来ていて、日建連の各社もそういうスタンスで進出しています。

**サコ** また、万博は本来これからの担う若者への未来モデルであり、大いに刺激となり、生きるヒントが見つかることもある場です。私は今回の万博を通じて若い人に「夢をみて良いんだよ」「もつと人と触れ合ってみたら」「世界にはまだ希望が残っているんだよ」ということを伝え、安心させることができないかなと考えています。

**加賀田** 建設業などビジネスの世界では、すでに子どもの頃からIT環境の中で育ってきた若い人たちが、働き方改革を含めた事業環境の大きな変化のうねりの中で、DXへの取り組みに精通しイキイキとしているように見えるのですが、AIによる自動設計や施工機械の自動化等、技術面でもずいぶん進化しており、やはり若い人たちの推進力があってこそ成し遂げられてきたと感じています。

したという「経験」なんです。会社でも迷惑をかけ合っても良いよ、お互い様だから「というような関係を体験してきていないんですね。そのことの良さ、大事さを今こそ教えてあげるべきじゃないかと思っっているんです。私は今ドバイの万博計画にも関わっているんですが、ドバイの万博はあちこちに『ストーリー・テリングの場所』を設けているんですよ。物語を、歴史を、社会を語る場を設けている。これってすごい重要なことです。ドバイでも若い人はやはりみんなが集まってワイワイする経験がない。このジェネレーションの問題は日本だけじゃないんです。だから、人となりが、社

会のことをもつとよく知ろうと、そこを世代間の対話の場にしたんです。日本でも今回の万博がその役割を担えるのではと考えています。敷地内どこかに集える場所を作り、親世代を超えて我々のような年配者が、若い世代に培ったものを伝えるのって素敵な考えだと思いませんか。今回の万博は、事前はどこかで得た情報を確認しに行く、復習しに行く万博にしてほしくないなと思っいます。万博はそれこそ次代の英知を集約した、影響力のある祭典です。素直に受け止め視察し、あるいは学び、自分にとって価値のある何かを発見しに行く万博にしてほしいと思っています。

**加賀田氏インプレッション**  
建設業界も、グローバルにならざるを得ない大きなフェーズを迎えています。これまでインフラを整備し、歴史的建造物から都市空間まで日本の基盤を創ってきた我々ですが、時代はまさにダイバーシティ&インクルージョン。海外事業の推進はもちろん、多様な国籍や文化、価値観を持つ人々とともに、協調しながら競争力を高めていくことが求められています。今回、万博という未来ステージに着手することにより、我々の世代にはない視点や発想を持つ国内外の若い人に、建設業の可能性がある、魅力的と感じてもらい、将来を担う人材の獲得につながればと願っています。

※1 DX (デジタルトランスフォーメーション) 企業がICTを利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させること。  
※2 Z世代 1990年後半〜2012年頃に生まれた世代。高遠インターネットやSNSのある時代に育ち、デジタルネイティブと呼ばれる。  
※3 ダイバーシティ&インクルージョン ダイバーシティは「多様性」、インクルージョンは「受容」の意。性別年齢、障がい、国籍、宗教、価値観などの属性に関わらず、それぞれの個性を尊重し、認め合い、良いところを活かすこと。



## ウズビ・サコ氏から 建設業界への 提言

### VOICE 01 徹底して手を抜かない 職人文化を 外国人に伝えてほしい

どんなにAI化や無人化が進もうと日本の建設技術を支えているのは、細かい気遣いや、徹底して手を抜かない現場の職人文化だと思っています。万博を機にいろんな国から建設を学びたいとやって来る人もいでしょう。その際には広く門戸を開き、研修で受け入れ、その現場精神を徹底して教育してほしいのです。そこで育った優秀な人が、もし本国に帰るならそこで社員として採用し、現地の人をスムーズに動かすマネージャーとしての仕事に就かせてはどうでしょうか。海外では、日本の枠組みをそのまま当てはめず、違いを認めながらどう自分たちの力になってもらえるかを工夫する意識改革が重要だと思っています。

### VOICE 02 多様化と国際化で、 他業界のお手本に

私が、日本の建設業にいちばん期待するのはどこよりも多様化・国際化して他業界のお手本になってほしいということです。そして、他国との自由競争の時代になっても、建設技術のグレードの高さを維持し、今後も日本が世界で選ばれ続ける存在であってほしいということです。世界でも地震や災害によって、多くの建物を今消失しています。ヨーロッパの歴史ある橋や建物など、もろくも崩れ去るのをたびたび目にします。安全で安心して使える建物を求めているのは、今世界も同じです。信頼できる

高度な建設技術をもつ日本の建設会社こそ、世界に求められていく存在です。今後、世界をフィールドにぜひその力を発揮して行ってほしいです。



加賀田 健司氏

1957年、京都市出身。  
・京都大学 大学院工学研究科 土木系修士課程修了  
・米国 Cornell大学 大学院 Eng. Management修士課程修了  
一般社団法人 日本建設業連合会 関西支部 支部長  
大成建設株式会社 常務執行役員 関西支店長



Oussouby SACKO  
ウズビ・サコ氏

1966年、西アフリカ・マリ共和国出身。中国の南京東南大学を経て1991年来日。京都大学 大学院工学研究科 建築学専攻博士課程修了。2018年から京都精華大学 学長に就任。  
●研究テーマ：「空間人類学」  
※京都の町屋再生・コミュニティ再生を調査研究  
●著作：「『これからの世界』を生きる君に伝えたいこと」「アフリカ出身 サコ学長 日本を語る」「アフリカ学長、京都修行中」など

です。教育者の立場から言わせていただくと、今の日本の若い人たちは自分に向き合おうとしなくなっています。とくにZ世代と呼ばれる若者は、生まれた時から社会がダメな状態で経済も底で良い思いをしたことがないんです。ですから、将来が不安だから道を外れちゃいけないとか、無駄遣いしちゃいけないとか、超慎重派なんです。彼らは確かにデジタルには精通しています。しかし、彼らに絶対的に足りないのが社会の中で人と行動

